

茨城県における地域振興を目指した  
地質情報活用プロジェクト  
～ジオパーク設立を目指して～

教育・研究 地域交流

〔代表者〕 理学部 4年 細井 淳

**連携先**

対象地域：茨城県内各地域（水戸千波湖周辺地域・ひたちなか平磯周辺地域・太子袋田周辺地域・北茨城五浦周辺地域・筑波山～霞ヶ浦周辺地域）

連携先：グリーンふるさと振興機構、水戸市、水戸市教育委員会、水戸市商工会、水戸市観光協会、ひたちなか市、ひたちなか市教育委員会、ひたちなか市商工会、ひたちなか市観光協会、太子町、太子町教育委員会、太子町商工会、太子町観光協会、北茨城市、北茨城市教育委員会、北茨城市商工会、北茨城市観光協会、つくばエキスポセンター、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、産業技術総合研究所 地質標本館、かすみがうら市郷土資料館、土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場、株式会社サイボックステクノロジー、関東鉄道、ひたちなか海浜鉄道、つくばグランドホテル、筑波温泉ホテル、つくば山ホテル青木屋、宝性院歩崎山長禅寺、行方市観光物産館、茨城県立水戸第二高等学校、JTB 関東、ジーエスアイ株式会社、新日鉱ホールディングス、日立市、日立市教育委員会、日立商工会議所、日立観光協会、大洗町、大洗町教育委員会、大洗町商工会、大洗町観光協会

**参加者**

細井 淳（理学部 理学科 地球環境科学コース 4年）  
神 直也（ ” ” ）  
滝本 春南（ ” ” ）  
凶子田 香織（ ” ” ）  
綿引 麻衣子（ ” ” ）  
小山 剛平（ ” ” ）  
小畑 大樹（理学部 理学科 地球環境科学コース 3年）  
花川 和宏（ ” ” ）  
畑中 雄太（ ” ” ）  
土屋 沙亜武（ ” ” ）  
藤原 健一郎（ ” ” ）  
斉藤 千帆（ ” ” ）  
松原 弘和（ ” ” ）  
伊藤 なつみ（ ” ” ）  
伊佐 幸文（理学部 理学科 地球環境科学コース 2年）  
藤原 礼子（教育学部 情報文化課程 社会情報コース 2年）  
澤畑 優理恵（理学部 理学科 地球環境科学コース 1年）  
伊藤 太久（大学院理工学研究科 地球生命環境科学専攻 M2）  
松原 典孝（理工学研究科 宇宙地球システム科学専攻 D3）

## **プロジェクトの実施概要**

### **[プロジェクトの背景と目標]**

2008年10月、国土交通省に観光庁が設立されたことに代表されるように、現在、日本において「観光立国」化を目指した具体的活動が始まっている。その中で「ジオパーク」は世界遺産に並ぶものとして注目を浴びている。これは科学的に重要な地質遺産を資源とした自然公園であるが、その地域の文化、教育、観光などの振興をとおして地域社会の活性化を目指している点で、いわゆる自然公園とは異なっている。昨年、日本ジオパークネットワークが設立されたほか、東アジアジオパークネットワーク設立も予定されるなど、国際的にも今後一層の盛り上がりを見せることは確実である。現在、国内3地域（有珠・洞爺湖、糸魚川、島原半島）が世界ジオパークネットワークに登録を申請中であり、さらに複数の自治体が名乗りを上げている。

地質情報は日本中どこにでも存在する。したがって、従来一般的な観光資源を持っていなかった地域でも地質情報を核にして観光開発を行うことが可能である。一方、従来すでに観光資源のあった地域においても、ジオツーリズムなどを通して、それを豊かな自然とリンクすることにより総合的な観光開発ができる。本プロジェクトは、従来観光に利用されてこなかった地質情報を観光情報化することで地質学を生かした地域の活性化支援をめざす。さらに、地質情報を介して茨城の成り立ちを知ってもらい、地域の方々の教養教育や防災意識向上に役立ててもらうとともに地質情報の重要性と有用性を広く認識してもらうことも目標とする。

### **[計画と連携の方法]**

本年度は、茨城県北ジオパーク設立を目標に、県北地域に集中して活動を行う。茨城県北には豊かな地質資源やそれを元に成り立った産業、文化が多数存在する。それらを活用し、生涯学習や地域興しを行うことを目的とする。主な活動目標は以下の通りである。

#### **①ジオサイト（地質・地形的に面白いポイントおよび、地質・地形に関連して発展した産業遺産や文化財等）の発掘と茨城県北地質100選の選定。それらをWeb上で公開するとともに、茨城県北ジオサイトマップを作成する。**

：茨城県北には豊かな地質資源が数多く存在するが、必ずしもそれらは一般に知られているとは限らない。ジオサイトを発掘し、一般の方々に理解しやすい解説をつけることで、茨城県北地域の魅力をアピールする。

#### **②地質観光マップの作成。**

：昨年までに作成した6箇所に加え、常磐炭田地域および日立鉾山地域において地質観光マップを作成する。この2箇所は地質学的に面白いだけではなく、日本の産業発展を支えた拠点としても重要である。地質観光マップの作成は、メンバーが独自に情報を収集するほか、博物館や各市町村教育委員会等からも情報の提供と協力を依頼する。収集した地質情報は観光情報化し、地質観光マップを作成する。対象は一般の観光客や地域住民とし、内容が難解すぎずかつ豊富な情報を盛り込めるようにする。紙面に載せきれない情報はユビキタス技術を利用し携帯電話で読めるようにする。

### ③地質観光マップを用いたジオツアーの実施

: 9月に北茨城市（産業技術総合研究所・地質標本館と共同）、10月に袋田周辺地域、11月に・・・を予定。このツアーへの参加者は一般から募集する。それぞれ駅或いはバス停集合とし、歩いて1日程度のツアーとする。

### ④茨城県北ジオパーク関連市町村との連携

: 茨城県北ジオパーク関連市町村と連携して、地質情報およびジオツーリズムの活動情報を提供する。

#### [期待される成果]

このプロジェクトにより作成した地質観光情報は、地域住民の防災意識向上や生涯学習のほか、観光客誘致による地域活性化も期待できる。また、茨城ジオパーク設立の礎になるものと期待できる。

### プロジェクトの成果報告

今年度の本プロジェクトの目標は①茨城県北地質100選の選定とそのマップ作成及びweb公開、②地質観光マップの作成、③ジオツアーの実施、④各自治体・団体との連携であり、これに対する成果は下記のとおりである。

まず①では、茨城県北の地質および地質に関する情報を文献及び現地調査にて収集し、ポイントを選定した。用紙の都合上100ポイント載せることが困難なため、厳選したポイントを“茨城県北ジオポイントマップ”として作成した。これはweb上にも公開している。

次に②では、当初は常磐炭田と日立鉱山の2地域であったが、常磐炭田と大洗海岸、八溝山の合計3地域作成することができた。

さらに③では、日本地質学会と共同でジ

オツアーを実施し、地学に詳しい人、詳しくない人問わず多くの人から満足したといった声を頂いた。さらに今年度は当プロジェクトに対してジオツアーの実施や案内人の依頼があり、他団体からの依頼という形でもジオツアーを実施出来た。

そして④では、今までの連携先に加え、新しく地質観光マップを作成した地域の市町村など合計9つの自治体から後援を頂くことができた。

今年度の特記すべき成果は下記の5つである。

1：茨城県北ジオポイントマップの作成

ジオパーク設立には地質学的な見所を多数集め、まとめる必要がある。今年度、茨城県北にある見所を発掘しマップとして形にしたこと、またそれをweb上に公開できたという点は大きな前進である。

2：新たに3地域において地質観光マップを作成

今年度は当初の予定より1地域多い3地域作成することができ、昨年度までに作成した物と合わせると計9地域作成したことになる。

3：各種イベントの参加とジオパークワークショップでの意見交換

日本地質学会におけるポスター発表、水戸市環境フェスタや建設フェスタ、サイエンスアゴラ、青少年のための科学の祭典へのブース出展など、多くのイベントに参加し、プロジェクトをアピールできた。また、ジオパークの認定を受けた地域とジオパーク認定を目指す地域が集まり、意見交換をするジオパークワークショップに当プロジェクトも参加し、活動内容を報告すると

共に意見交換をできたことは、大変有意義なことである。

4：依頼の増加。認知度の増加

今年度は様々な自治体や団体からジオツアーなどの依頼を受けた。他から依頼を受けるようになった背景に当プロジェクトの認知度の増加が考えられる。

5：茨城大学ジオパーク学内委員会への代表の参加

12月に結成した茨城大学ジオパーク学内委員会にメンバーの参加が決まり、今後当プロジェクトとの協力が考えられる。これはジオパーク設立への大きな前進である。